

財団法人みずほ教育福祉財団
特別支援教育研究助成事業

特別支援教育研究論文

— 平成 23 年度 —

普通学級と個別支援学級とが連携して
『学び合い』互いに高めあう授業実践

横浜市立日限山小学校

教諭 三 長 仁

平成 24 年 3 月

研究協力：国立特別支援教育総合研究所

目次

要旨	1
I はじめに	1
II 研究の仮説	2
1 体育の授業における通常の学級と特別支援学級との連携授業の実践	2
2 道徳の授業における一斉授業と連携授業との違い	2
III 研究の方法	3
1 対象の概要	3
2 体育の授業における通常の学級A学級と 特別支援学級との連携授業の実践	3
3 道徳の授業における一斉授業と連携授業との違いの調査	4
IV 研究の結果	5
1 体育の授業における通常の学級A学級と 特別支援学級との連携授業の実践	5
2 道徳の授業における一斉授業と連携授業との違いの調査	11
V 結論	19
VI 今後の課題	20
引用・参考文献	21
資料	23

通常の学級と特別支援学級とが連携して 『学び合い』互いに高めあう授業実践

要旨

小学校において、通常の学級1学級と特別支援学級とが連携して授業をおこなう実践に取り組んだ。取り組んだ教科は体育、道徳の2教科である。上越教育大学の西川純教授が提唱する『学び合い』（西川，2010）の授業スタイルを取り入れて授業を行った。実践の中で、児童は他者とより深く関わりながら学ぶ姿が見られ、新しい発見や喜びを見つけていく。特に、通常の学級の児童の自律性、自主性、責任感が向上したことがうかがえた。将来は共に我が国の未来を形作る通常の学級と特別支援学級の児童が、共に助けあい、学び合い、時間を共にすることに、大きな価値があると考え、この実践と研究を報告したい。

キーワード 通常の学級 特別支援学級 連携 『学び合い』 授業実践

I はじめに

A市には、平成19年度5月1日時点で、小学校347校があり、その中で特別支援学級の設置校は346校であり、ほぼすべての小学校に特別支援学級がある。そこに通う児童数は3653人であり、この10年間で2倍以上増加した。今後も年11%から12%の割合で増加傾向にある。全国的にもこれと同じように、特別支援学級に通う児童数は増加傾向にある。

こうした中、交流及び共同学習と呼び、特別支援学級に在籍する児童が、当該学年の通常の学級の授業、日常活動などに参加する取り組みが広く行われている。A市も、特別支援学級と通常の学級のそれぞれの教育課程を尊重し、相互に充実・補充し合う適切な指導目標や指導内容の設定も課題であるとし、各学校で取り組みが進んでいる。交流及び共同学習では、特に知的な遅れが軽度な児童生徒ほど交流の時間数が多い傾向にある。

特別支援学級に在籍する児童も通常の学級に在籍する児童も、いずれは我が国の担い手として、共に社会を形作っていく仲間である。児童期から積極的に交流を進め、共に社会を形作るもとなる関係性を構築していく必要性は、特別支援学級に在籍する児童が急増する中、今後より一層求められていくであろう。現状の交流の実態は、特別支援学級の児童が、通常の学級の授業に参加するパターンがほとんどである。逆に、通常の学級の児童が特別支援学級に入る交流という例は極めて少ない。特別支援学級の児童が、通常の学級の授業に参加するパターンでも、そこで両者の交流が進むのは当然といえよう。しかし逆のアプローチである通常の学級の児童と特別支援学級とともに交流して授業をすることがあってもよいのではないだろうか。このアプローチによって相互の児童にどのような教育的価値をもたらすのか、探ってみたいと考えた。

上越教育大学の西川純教授は、『学び合い』と呼ぶ授業の提案を行なっている。基本的に、『学び合い』の授業では「一人も見捨てない」「みんなでみんなができる」という教育観のもとに展開される。その授業スタイルは、教師の役割を「課題の設定」「学習環境の整備」「評価」の3点に絞り、それ以外は児童・生徒たちに学びを委ねる。という授業スタイルの提案である。これまでの通常の一斉授業のスタイルは、教師が黒板の前に立ち、板書を行い、児童・生徒が着席してノートを取り、教師の発問に対し、挙手・指名されて発言して展開するという形であった。一方、『学び合い』の授業では、教師の中心となる出番は、授業の最初と最後に限られる。授業の最初に、児童・生徒に対して「課題の設定」を設定して児童・生徒に伝え授業が始まる。その後、全員が課題を達成するために児童・生徒は自由に立ち歩き、動きまわり、質問したり、説明したり、時には必要な特別教室などを活用し、学習を自律的に進めていく。このときの「学習環境の整備」を保証し、見守るのが教師の役目となる。最後に、今日の課題が達成できたかどうか児童・生徒と確認し、教師が「評価」を行う。『学び合い』の授業によって、児童・生徒の間の人間関係が向上し、学力が向上するという実践例が近年全国的に報告されている。A 市内・神奈川県内でもこの『学び合い』のスタイルを取り入れて、授業に導入する教師の実践例が平成21年度あたりから増えてきており、今後の展開が期待される。(西川純 『学び合い』スタートブック 学陽書房 2011)

さらに近年、上越教育大学の西川純教授の研究室における研究で、小規模校において、特別支援学級を含む全校児童が体育館で一斉に『学び合い』の授業を行う実践例が報告されはじめた。(小規模小学校における全校教科学習活動 上越教育大学 西川純 2011)そこでは、異学年で一斉に授業を行うことの成果が報告されている。小規模校ならではのメリットをいかした実践と言えよう。しかしながら、A 市のような都市部の学校では、全校規模が数百人となり、全校一斉の授業に取り組むことは困難であると思われる。しかし、その中間点とも言える異学年、異学級どうしが連携して授業に取り組むということであるならば、可能性を追求できそうである。

以上のことから、通常の学級と特別支援学級とで、『学び合い』の授業スタイルを取り入れながら連携して授業をすることは可能なのではないか。また相互にメリットがあるのではないか。限られた条件の中ではあるが、授業実践を通じ、相互の児童、特に通常の学級児童の変容を中心に見ることによって、その可能性と特徴について探っていきたいと考えた。

Ⅱ 研究の仮説

1 体育の授業における通常の学級と特別支援学級との連携授業の実践

体育の授業における通常の学級と特別支援学級との『学び合い』を取り入れた連携授業は成り立ち、相互に高め合うことができる。特に通常の学級の児童は、他者との関わりについてより深く学ぶことができる。

2 道徳の授業における一斉授業と連携授業との違い

従来の一斉授業による道徳の授業に比較し、体育の授業における通常の学級と特別支援学級との『学び合い』を取り入れた連携授業は、特に通常の学級の児童は、他者との関わりについてより深く学ぶことができる。

Ⅲ 研究の方法

1 対象の概要

実践研究を行った B 小学校は、A 市内の閑静な一戸建てを中心とした住宅街を学区としている。A 市内においては、公園、緑地などが多く、環境に恵まれている地域である。学力的には、市内で行われている学力テストの平均が、市の平均をほとんどの教科で上回る。一方体力テストの結果を見るかぎり、多くの項目で市の平均値を下回る。学習はできるが、運動が苦手であるという傾向があるといえる。全校 21 学級の中規模の学校である。1 学年は 3 学級で構成されており、特別支援学級は 3 学級で担任も 3 人配置されている。

実践の対象学級である特別支援学級は、2 つの教室があるが、基本的に 1 つの教室で 3 学級(知的障害の特別支援学級 1 学級、情緒障害学級 2 学級)が同時に学習する時間が多い。各児童は通常の学級と交流する学級が各々決まっており、児童の実態にあわせて交流級で通常の学級の児童とともに授業を受ける時間がある。在籍児童は平成 X 年度 11 名。構成は 1 年生から 4 年生である。平成 X+1 年度の 12 月時点で 12 名。構成は 1 年生から 5 年生までである。平成 X 年度の 3 人の担任のうち、平成年度に 2 名変わっている。この 2 年間で継続して担任しているのは 1 名である。

もう一つの被調査学級は平成 X 年度の 6 年生の A 学級 32 名。平成 X+1 年度は 6 年生の B 学級で 38 名である。A 学級と B 学級とは、児童は異なるが担任する教師は同じ教師で、教職歴は 20 年になる。A 学級は通常の授業を理解出来ない学習困難児が 1 名おり、5 年生まで特定の時間に学級以外の教室で加配された教師による個別の学習支援を受けていた。A 学級は落ち着いており、半数以上が『学び合い』の授業を 4、5 年生で経験をしている。B 学級は、場面緘黙の児童が 1 名いる。活発な雰囲気であり、『学び合い』の授業は 6 年生で初めて経験をしている。A 学級も B 学級も、該当学年に特別支援学級の児童が在籍していない。

2 体育の授業における通常の学級 A 学級と特別支援学級との連携授業の実践

平成 X 年度において、6 年生 A 学級、特別支援学級との、体育科の『学び合い』のスタイルを取り入れた授業実践を 2 時間に渡っておこなった。写真撮影、ビデオ撮影、筆記で授業記録を取り、授業後に毎時間、6 年生 A 学級の児童から振り返りをカードに記入してもらう方法で、データ収集を行った。

単元名	「ソーラン節」2 時間
単元目標	通常の学級と特別支援学級のみんなが、ソーラン節を覚え、いっしょにおどることができる。
場所	体育館

3 道徳の授業における一斉授業と連携授業との違いの調査

平成 X+1 年度において、B 小学校の 6 年生 B 学級、特別支援学級との道徳の授業を、通常の形態である一斉授業をそれぞれ 1 時間。連携しておこなった授業を 1 時間。連携する前に 6 年生 B 学級が行った授業 2 時間。以上を実践し調査の対象とした。写真撮影、ビデオ撮影、筆記で授業記録を取り、授業後に毎時間、6 年生の児童に振り返りをカードに記入してもらう方法で、データ収集を行う。B 学級と特別支援学級単独の一般的な一斉授業と、両学級が連携して『学び合い』のスタイルを入れた授業とで、どのような差異があるのか、データを基に比較検討する。

① 6 年生 B 学級で行う一般的な一斉授業

単元名	「友情について考えよう」	1 時間
教材名	「いちばん高くうれた絵」光村図書	
単元目標	互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助けあう。	
場所	B 学級教室	

② 特別支援学級で通常行われている一斉授業

単元名	「安心・自信・自由を守るには」	1 時間
教材名	「あなたが守る あなたの心・あなたの体」童話館出版	
単元目標	正しいと判断したことは、勇気をもって行う	
場所	特別支援学級教室	

③ 6 年生 B 学級と特別支援学級との『学び合い』のスタイルを入れた連携授業

単元名	「安心・自信・自由を守るには」	特別支援学級 1 時間 (6 年生 3 時間)
教材名	「あなたが守る あなたの心・あなたの体」童話館出版	
単元目標		
	特別支援学級	正しいと判断したことは、勇気をもって行う
	6 年生 B 学級	だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。 自由を大切にし、自律的で責任ある行動をする。
場所	特別支援学級教室 特別支援学級プレイルーム	

IV 研究の結果

1 体育の授業における通常の学級A学級と特別支援学級との連携授業の実践

(1) 導入

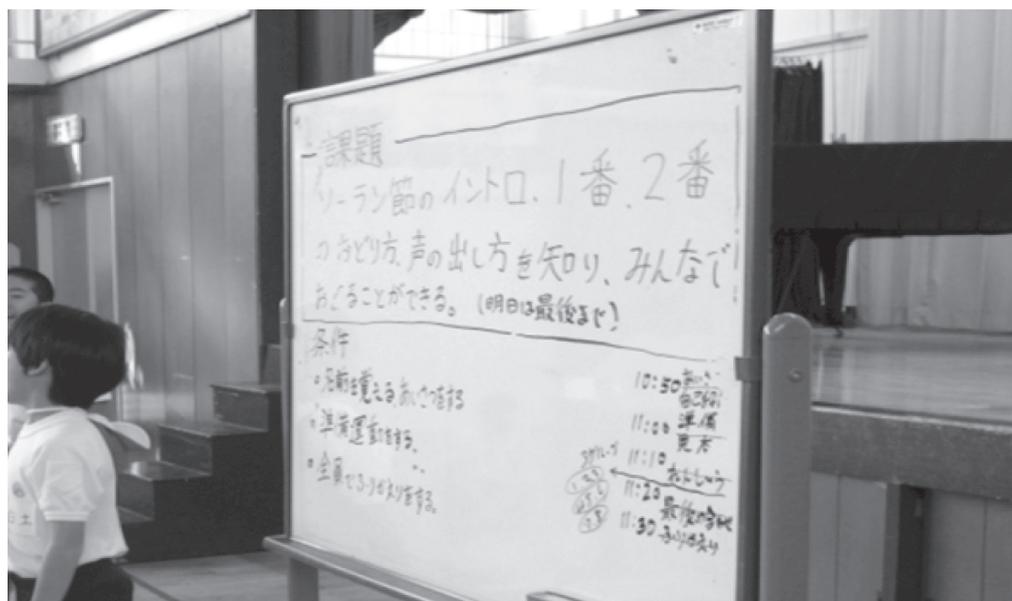
6年生であるA学級では、体育の学習の中で「ソーラン節」（伊藤多喜雄 ロックソーラン）を学年全体で練習し春季の運動会で発表をした。「ソーラン節」は毎年6年生がおどっており、B小学校の伝統でもある。練習風景を全校児童がよくみている。特別支援学級の児童S（3年生）は特にこのおどりを気に入り、特別支援学級内でよくおどっていた。特別支援学級は毎年2月に区内の特別支援学級が集り日頃の学習成果を発表する学習発表会に参加している。児童Sが「ソーラン節」を気に入っている様子などもあり、特別支援学級の担任3人は、「ソーラン節」を学習発表会で発表する方針を立てた。

その状況を聞いたA学級担任からの申し入れにより、「ソーラン節」を学習教材として、A学級と特別支援学級との連携授業を設定しようということになった。A学級担任は、その旨をA学級の児童らに伝えた。A学級担任は児童の反応がよくないのではと不安に思っていたが、児童らの反応は概ねよかった。

体育館で1日1時間、2日分で計2時間の授業計画をたてた。教師の役割は、A学級担任が授業を中心に主導し、特別支援学級担任の3名が、基本的に児童の活動を見守り、必要に応じて声かけなどのフォローをすることとした。

(2) 実際の授業のようす

単元の1時目。はじめに体育館にA学級と特別支援学級の児童が集まった。挨拶をし、A学級担任が、みんなを集め、本時の課題を板書しながら説明し児童に伝えた。【 図1 】



【 図1 】 A学級担任による課題の提示

課題 ソーラン節のイントロ、1番、2番のおどり方、声の出し方を知り、みんなでおどることができる。(明日は最後まで)

条件

- ・名前を覚える。あいさつをする。
- ・準備運動をする。
- ・全員でふりかえりをする。

課題を児童に伝えたので、あとは、全て児童らに学習方法を委ねた。特に事前に打ち合わせもしていなかったが、A学級の体育係が自主的にリードし、準備運動を行った。両学級の間には、まだ一緒になりきれない、分け隔てるラインがあるように見えた。また表情も固かった。【 図2 】



【 図2 】 準備運動のようす

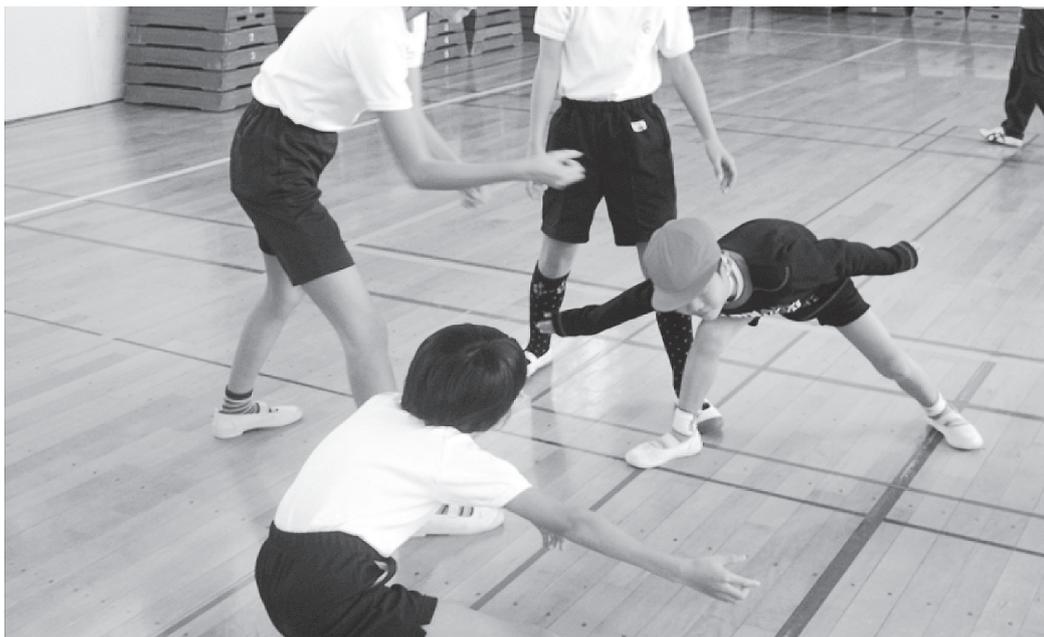
まず始めに、自分たちのおどりを見てもらおうということになり、放送係の子が体育館の放送室でCDをかけ、A学級の子らが特別支援学級のみんなに「ソーラン節」のおどりを見せた。その後、A学級の児童らは、8つのグループに別れ、一つ一つのグループごとに特別支援学級の子どもたちの配属を1, 2名決めた。その後、車座になって自己紹介を始めた。【 図3 】



【 図3 】 車座になって自己紹介をする

A学級の子と、特別支援学級の児童らはこの自己紹介をする頃から互いに打ち解けはじめ、表情が柔らかくなった。それぞれのグループに別れ練習をはじめた。A学級の放送系の児童が、体育館の2階にある放送室から、1階の児童に声をかけながら、「ソーラン節」をパート毎に曲を流していった。

ここからは、特別支援学級の児童一人にA学級の児童が2人から3人程度がついて、「ソーラン節」のおどり方を教えていった。【 図4 】



【 図4 】 6年生が3人で特別支援学級の子1人に教える

特別支援学級の児童の表情もよかったが、何よりも、A学級の児童の表情に輝きがみられた。授業の最後に、みんなでおどることとなり、体育館で全曲を通しておどった。

(3) 最終

2時間目は、1時間目よりもスムーズに授業は展開した。基本的な授業の流れは1時間目と同様である。最終的に、特別支援学級の子の多くが「ソーラン節」をおどることができ、2月の学習発表会でその成果を発表することができた。

特別支援学級のM(3年生)が連携授業のときは、なかなかみんなの輪に入ることができなかった。連携授業後の特別支援学級独自の練習ではみんなの輪に入り、2月の学習発表会ではしっかり発表することができた。

(4) 各児童のようす

① 事例1

A学級の児童C10は、1時間目は担当していた特別支援学級の児童N(4年生)に対して、どのように接して良いか戸惑っていた様子であった。常に直立したまま、ずっと児童Nの行動を観察していた。

声をかけることも、自分から何か動作を見せることもなかった。【 図5 】



【 図5 】 児童C10 がじっと児童Nを観察しているようす

しかし、同じ児童Nを担当している別のB学級の児童が2人おり、その2人が先導して、児童Nに関わっていった。C10は、その中でもずっと同じように直立して、児童Nを観察していた。

児童C10は1時間目の振り返りで

A,B組の人たちとはあまりかわりがなくて、今日初めてしゃべったけど、ちゃんとコミュニケーションをとれたので良かったです。ぼくたちの班はN君に教えてあげました。N君に教えるのは難しかったけれどちゃんと教えられたのでよかったです。

と述べている。教師の観察の限りでは言語活動があったようには見えなかったが、本人はなんらかコミュニケーションをとろうと努力し、成功していた様子が伺える。何もしていないように見えても、C10の意思が確実に児童Nに向けられていたことは確かである。また、「今日初めてしゃべったけど、」から、同じ学校内に特別支援学級があっても、当該学年に交流級がないA学級のような場合、卒業するまで特別支援学級の子とのふれあいが極めて限定的であるということも分かる。

2時間目になったとき、児童C10は児童Nを常に見守りながら、声をかけたり、見本の動きを見せるなどして学習を進めるようになった。最後に全員で「ソーラン節」をおどったときに、児童Nの後ろ1メートルほどで、常に児童Nを見つめながらおどっていた。【 図6 】児童C10はこの日の振り返りで、

A,B 組の人に教えるのは難しかったけれど、みんなで最後に集まっておどれたのでよかったです。
A,B 組のみんなにソーラン節をうまくおどってもらいたいです。

と述べている。共に学習することに困難さを感じながらも、最後まであきらめずに課題を達成しようと努力していた様子がうかがえる。また、常に特別支援学級の児童に、学習中の視点が向けられていたこともうかがえた。

文部科学省の小学校学習指導要領 第2章 第9節 体育 第2部 各学年の目標及び内容 [第5学年及び第6学年] の1目標には「協力、公正などの態度を育てる」「活動を工夫して各種の運動の楽しさや喜びをあげよう」といった内容が記載されている。コミュニケーションをとることが無かった相手に対し、困難を感じても最後まであきらめずに接し、共におどることを楽しめたC10の様子につながる内容といえる。



【 図6 】 児童C10が児童Nを見守りながらおどる様子

② 事例2

特別支援学級の児童M(3年生)は、1時間目から体育館の入口で一人きりになり、みんなの輪に入ることができなかった。特別支援学級の担任Aが児童Mに声をかけたが、じっとみんなの様子を観察しているだけで、踊ろうとしなかった。特別支援学級の担任Aによると、完全に自分ができる自信が持てるまでは、みんなの前でおどろうとはしないと分析していた。

担当していたA学級の児童C11と児童C28の2名はそれでも粘り強く児童Mに声をかけていたが、2時間目が終了している時点でも児童Mが体を動かすことはなかった。そのことを児童C11は振り返りカードで

M君が参加できずにいて、それをさそうことができなかつたのが残念です。でも、みんな楽しそうにやっていたので、とてもよかったとおもいます学習発表会でもがんばってほしいです。

と述べている。また児童C28も

今日は担当の男の子といっしょに練習ができませんでした。男の子は座ったままでうごかなくて、できませんでした。何度もさそったけどできなかったの、とても残念でした。

と述べており、残念さがうかがえる。この児童C11と児童C28の2名は、2時間目の授業の半ばからは、なかなか動こうとしない児童Nに対し、自分たちのおどりを見てもらおうということにした。懸命に児童C11と児童C28の2名は児童Nの前で「ソーラン節」をおどり、児童Nも食い入るようにみている。

【 図7 】

児童Nはこの授業後は、特別支援学級の練習の中で「ソーラン節」をおどることができるようになり、2月の学習発表会ではその成果を発表することができている。



【 図7 】 児童Nの前で懸命におどる児童C11と児童C28

授業時間内には課題達成はできなかったものの、そこに向けて最善をつくそうという意図が、児童C

11 と児童C28 の行動からうかがえる。

文部科学省の小学校学習指導要領 第2章 第9節 体育 第2部 各学年の目標及び内容 [第5学年及び第6学年] の1目標に記述されている、「自己の最善を尽くして運動する態度を育てる」につながる事例と考えられる。

(5) まとめ

通常の学級と特別支援学級との連携授業は成り立つことが分かった。その中で、特に通常の学級の児童にとって、普段の授業では見られない、葛藤が生まれ、それを乗り越えようとする自律的な意識をみることができた。また、相手を思いやる気持ちや、受け止めたり、立ち止まってみるといった様々な行動が見られた。また、特別支援学級の児童にとっても、より多くの人に接する機会をもつという意味で有意義な時間であった。

2 道徳の授業における一斉授業と連携授業との違いの調査

(1) 一斉授業での言語活動の特徴

平成 X+1 年度にB学級で行った道徳の一斉授業の中では、授業中は絶えず挙手があり、指名が続けられ児童の発言は相次いだ。一般的に活発なやりとりがあった授業と言えよう。【 資料2 】ただし、教材文を音読する場合を除き、挙手し発言した児童は12名で全体の4割に過ぎない。【 表1 】

振り返りカードの記述を見るかぎり、残りの発言の無かった6割の児童も、この授業の中で思考していることは分かる。文部科学省の小学校学習指導要領 第3章 第3で求めている「自分の考えを基に書いたり話し合ったりするなどの表現する機会を充実し」という内容からみて、4割の児童のみで話し合っている授業には課題が残るものと言えよう。

【 表1 】学級Bの道徳の一斉授業時の発言数

	発言者数	発言回数	発言文字数	1回あたり発言文字数
児童	12	41	2656	64.8
教師	1	30	2507	83.6

また、授業全体の言語のやり取りの中で、教師の発言が半分の言語活動を占めている。児童と教師との発言頻度を4対3と捉え、これらをモデル化すると【 表2 】のように表せる。

【 表2 】一斉授業の中の言語活動モデル

教師の発問→児童の発言→教師の発問→児童の発言→児童の発言→教師の発問→児童の発言

このモデルの典型的な事例は、この授業の中での【 事例1 】のやり取りである。

【 事例1 】学級Bの道徳の一斉授業中における典型的な言語活動

T	ミレーが断る。僕がほしいからって言ったら？なぜ？
C24	お金が、あっちも大変なことってかいてあったんで、ルソーも大変って書いてあるので、だから、お金はいらぬから、絵だけあげるよっていうと思うから。
T	ミレーは、友達が欲しいっていったら、お金はいらぬからあげるよって言っちゃうってこと。
C24	そういうことです。
C13	p120のミレーとルソーの会話の中に11と12行目の「決して君は安く売ってはいけないよ。」って書いてあるから、普通の人ならば、自分がただ欲しいのならば、できるだけ安く買いたいはずなのに、その、安く売ってはいけないよって言って、できるだけ高くしているところが、やっぱりルソーがミレーのことを助ける、
T	助けるっていうことだけかな？
C13	思いやりがあるんだと思います

こうした形態は、特別支援学級でもほぼ同じである。【 事例2 】

【 事例2 】特別支援学級の一斉授業での発言のやりとり

T	大人に怒られた時ってどんな気持ちがする？寂しい気持ちがする？寂しさを感じる？
C1	お母さん怒るよ
T	そんなときどんな気持ちだった？
C1	怖かった
T	大人の人ってみんなの周りにいろいろといるね。今来ている学校にも大人の人がいっぱいいるけど、おうちのなかにも、道を歩いている、生活の中にもいろんな大人の人があるよね。ずっと探していたのが見つかった時はどんな気持ちがする？
C2	ゆったりする
T	H君。昨日

児童の発言を記録することが困難で、計測はできなかったが、通常の学級での一斉授業よりも、教師側の発言量が増加する傾向にある。逆に人数が限定されており、一人一人全員に教師側が発問できるので、児童の発言者数の割合は相対的に高くなる。

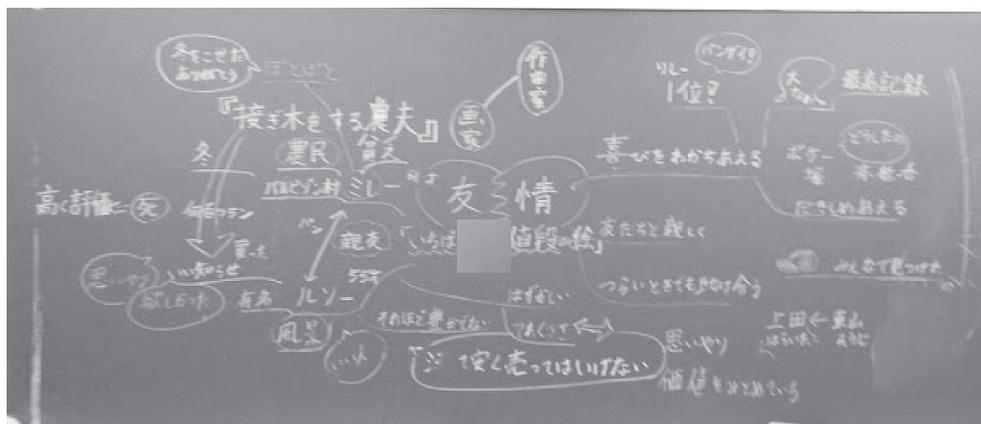
こうした教師の頻繁な問いかけ、それに対する児童の発言の繰り返しによる授業は道徳以外の多くの

教科の授業でも一般的に見られる。しかし、文部科学省の小学校学習指導要領 第3章 第3では「道徳の内容は、児童が自ら道徳性をはぐくむためのもの」と延べられている。教師の発言量が半分である一斉授業で、児童が自ら道徳性をはぐくむとは言えるのかには課題があるといえる。

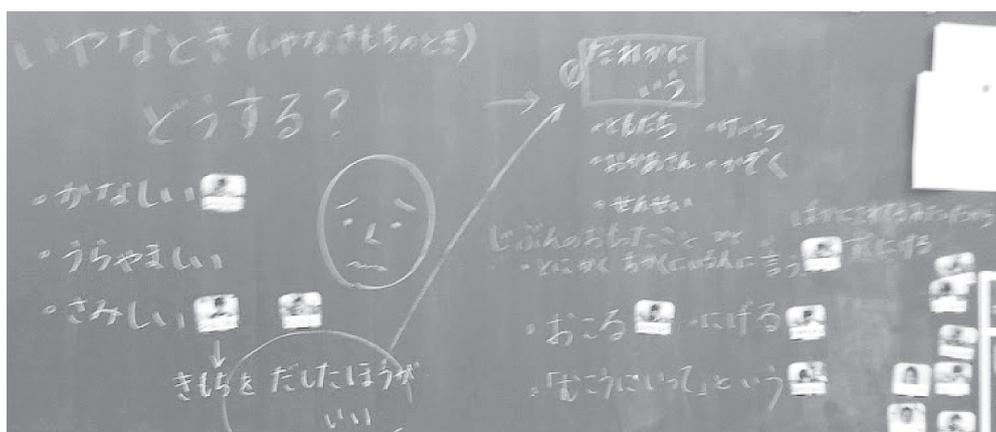
(2) 一斉授業での教師による板書

一斉授業においては、教師側は児童の思考の流れを整理・強化することを念頭におき、板書をすることが多い。観察した授業において、B学級【 図8 】でも特別支援学級【 図9 】でも同様な目的で、教師が板書を書き、類似点が多い。本時の課題がまず書かれ、児童の発言、途中の教師の発問などが書かれ、本時のねらいに対して色を使うなどして強調している。

道徳の授業の場合は、他教科で見られるように、板書をノートに写させるということは極めて稀で、あくまでも児童の思考の流れを整理・強化する視覚的役割を持っている。



【 図8 】学級Bの道徳の一斉授業時の板書



【 図9 】特別支援学級の道徳の一斉授業時の板書

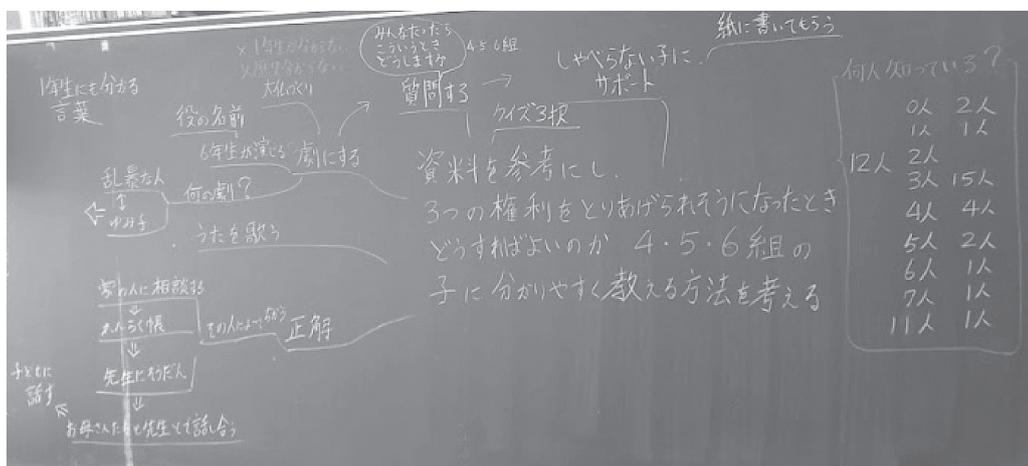
発言の無い児童の中には、こうした、教師側の板書をよりどころにして、自分の内的意見を構築しているのかもしれない。また、発言する児童は、絶えず板書を見ながら、自分の意見を構築しているよう

である。

(3) 連携授業のようす

特別支援学級で行われていた一斉授業を基に、その発展として、特別支援学級の担任と学級Bの担任とが協議し、連携授業の目的を一致させ計画をたてた。学級Bでは、連携授業の前に、2時間を取り、その準備を行った。

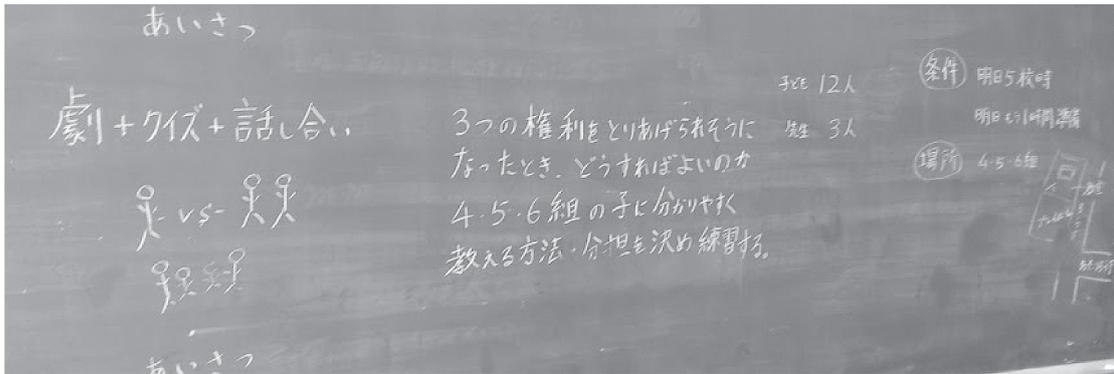
学級Bでは、第1時目に、教師が特別支援学級で用いられた教材「あなたが守る あなたの心・あなたの体」童話館出版、の抜粋資料を児童に配布し、児童に読ませた。その上で「資料を参考にし、3つの権利をとりあげられそうになったとき、どうすればよいのか、A・B・C組の子に分かりやすく教える方法を考える」という課題を提示した。このときは、学級B全体で方針を統一させるために、あえて一斉授業の形態をとって話し合いをしている。【 図 10 】



【 図 10 】 学級Bの連携授業の前での学習時の1時目の板書

この授業の中で、児童らは自らが教材にあるような状況を劇で演じ、クイズを導入し、話し合いをすることによって授業を進めていこうという方針を持った。

第2時目は、『学び合い』のスタイルをとり、教師側から「3つの権利をとりあげられそうになったとき、どのようにすればよいのかA・B・C組の子に分かりやすく教える方法・分担を決め練習する。」という課題が【 図 11 】のように提示された。初めの話し合いで、6つのグループで、それぞれ2人ずつを担当し、授業を展開することとなった。グルーピングは、基本的には座席を基にした生活班が基本となったが、一部児童らによって人数調整、人員の交換などが行われた。



【 図 11 】 学級Bの連携授業の前での学習時の2時目の板書

その後、教師からの「さあ、どうぞ」の指示のもと、各グループ毎に劇とクイズを中心とした学習内容の相談、練習が【 図 12 】のように行われた。基本的にはグループ毎に練習を行っていたが、グループ間の情報交換も多くみられた。



【 図 12 】 学級Bの連携授業の前での学習時の2時目のグループ活動

なお、学級Bでは、毎時間授業後に【 図 13 】のように、振り返りカードに授業の振り替えりを自由記述で書いている。【 資料3 】【 資料4 】【 資料5 】【 資料6 】



【 図 13 】 振り返りカードを記入している様子

こうしたB学級での下準備のもと、特別支援学級との連携授業が取り組まれた。B学級の担任が主導し、特別支援学級の担任3人は児童らの学習を見守り、支障がない限りは児童らの学習に介入しないというスタンスをとることとした。あいさつをした後、B学級の担任から、「安心・自信・自由を守るにはどうすればよいかみんなで考えよう。」という課題が提示され、時間の確認の後、児童らに学習は任された。

B学級の6年生が主導しながら、6つのグループで、それぞれ自己紹介をし、B学級の子が劇をし、クイズをし、話し合い、ロールプレイするという形態で学習を進めていった。6つのグループのうち、5つのグループでは、B学級の児童がたてた計画通り学習が進められたが、1つのグループでは、特別支援学級の児童がなかなか反応を示さず、B学級の児童がたてた計画通りには進まずロールプレイができなかった。しかし、計画通りに進まなかったグループでは、無理やり特別支援学級の子にロールプレイをさせることは、相手の安心・自信・自由を奪うこととなると話し合い、無理強いすることがなかった。

授業後に特別支援学級の担任が特別支援学級の児童らに聞き取り調査をしたところ、

- ・6年生と勉強したら、もっと楽しかった。
- ・「いやだ」ってちゃんと言えてよかった。
- ・お姉さんが「嫌なときは、嫌だって言っていんだよ」と言ってくれた。
- ・とにかくいろんなことを教えてくれた。劇をやってくれて分かりやすかった。
- ・自分も劇でやってみたら面白かった。

といった肯定的な感想を述べている。また、B学級の児童の振り返りの文書量は平均110文字と、これまでの学習の平均77文字を大きく上回り、この日の学習に対する関心の高さをうかがわせた。総じて、双方の意欲は高かったと言える。

(4) 一斉授業と連携授業との比較

B学級の児童には、学習終了時に毎時間自由記述による振り返りをしてもらった。自由記述の内容から、【表3】に示すように6つの観点に分けて、言及する回数を数えた。

【表3】振り返りを分析する6つの観点

登場人物に対して	教材文の中に出てくる登場人物に対する言及 (例) ルソーが
自分自身に対して	自分自身に対する言及 (例) もし自分だったら
他の児童に対して	他の児童に対する言及 (例) Nさんが
教師に対して	教師に対する言及 (例) 先生が
家族に対して	家族に対する言及 (例) お母さんに
価値観に対して	道徳の授業で扱っている価値観に対する言及 (例) 友情というのは

それぞれの一人あたりの平均出現数は【表4】のとおりである。

【表4】B学級(通常の学級)の児童における振り返りの自由記述文の中の一人あたり平均言及回数

授業内容	授業集団	授業の形態	登場人物に対して	自分に対して	他の児童に対して	教師に対して	家族に対して	価値観に対して	文字数
普通	B学級	一斉授業	0.6	1.2	0.5	0.1	0.1	0.5	87.6
連携授業 準備 1時間目	B学級	一斉授業	0.1	0.5	1.6	0.1	0.1	0.3	77.9
連携授業 準備 2時間目	B学級	『学び合い』	0.4	2.0	0.8	0.0	0.0	0.3	65.0
連携授業 直後	B学級+ 特別支援 学級	『学び合い』	0.0	3.2	2.5	0.1	0.0	0.3	110.6

一斉授業を行った場合、教材文の登場人物についての言及が平均0.6回。道徳の授業で扱っている価値観に対する言及が平均0.5回と、連携授業や『学び合い』に比べると頻度が多くなる。この傾向が見られる典型的な振り返り文を書いたのは児童C11である。

ぼくは最初友情とは喜びを分かち合い、信頼しあえることだと思っていたけれど、このお話を読んで、友情とは信じ合い、助けあうことだということが分かりました。絵をお金がない主人公に買ってあげるのはいい友情だなと思いました。

文部科学省の小学校学習指導要領第3章第1では「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとする。」としている。道徳的価値について児童に考えさせようとする場合、指導書通りの一斉授業は、かなり効果的であるということが言えよう。児童は教材文に出てくる登場人物の言動に心を寄せ、その中から自分の生き方について考えて学習をしている。一方、他の児童に対しての記述は最も少ない。本時で扱っている価値観は「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助けあう。」である。これに対して他の児童に対しての言及が少ないということは、道徳的価値には関心を持って、それを実践する相手にまで関心が波及していないとも読みとれる。

『学び合い』の授業では総じて自分に対する言及が増える。連携授業準備2時間目で、この傾向が見られる典型的な振り返り文を書いたのは児童C30である。

役割分担と教える方法を決めました。役割はナレーターになりました。教える方法は劇とクイズにしました。文を小さい子にも分かるように変えてみたりして、「安心、自信、自由」の権利をとりあげられそうになったとき、どうすればいいのか知ってもらえるようにたくさん工夫していきたいです。また、班のみんなと協力して声を大きくはっきりと言えるようにがんばりたいです。

『学び合い』では、授業時間のほとんどの時間で教師の直接的な指導がほとんど無い。自分たち自身で課題を達成するために、常に自分が何をやり、次はどのようにしたいのか、他の児童と相談し、試行錯誤をしながら学習している様子が見て取れる。文部科学省の小学校学習指導要領第3章第3では、「各学校においては、各学年を通じて自立心や自律性、自他の生命を尊重する心を育てることに配慮」とある。『学び合い』の授業を通じて、特に自立心や自律性が育まれることも感じられる。上越教育大学の西川純教授によると、『学び合い』の授業の学習効果が高まる1つの要因として、教師と同じ視点で授業を捉える児童の出現を挙げている。「文を小さい子にも分かるように変えてみたり」「どうすればいいのか知ってもらえるようにたくさん工夫していきたい」という記述内容から、児童C30は、教師と同じ視点で授業を捉える児童の出現の事例であると捉えることができる。

『学び合い』を取り入れ、かつ連携授業を行った場合では、自分に対する言及と他の児童に対する言及が最も多くなる。また、振り返りの文章量も多くなる。この傾向の典型的な振り返り文は児童C27で

ある。

最初どう説明していいか、わかんなくて、テンションが超低かったです。でも一生懸命聞いてくれたので上がりました。静かで聞いていたM君が笑ったり、話してくれたのがとても嬉しかったです。Y君も笑ってくれていたので私も楽しかったし、2人とも楽しそうでした。先生が悪い人をやってくれたので、もっと楽しかったです。2人に伝わってればいいと思います。もし次があるなら、今度はレクをやりたいです！！

自分の感情と相手の感情がどのように学習中展開していったのか、自分の意図が相手に通じて欲しいと願う思い、今後どのような関係を持っていきたいのかが分かる内容である。文部科学省の小学校学習指導要領第3章第3では、「高学年では、法やさまりの意義を理解すること、相手の立場を理解し、支え合う態度を身につけること、集団における役割と責任を果たすこと、国家・社会の一員としての自覚をもつことなどに配慮」とある。相手の立場を理解し、支え合う態度などが、連携授業の中で、児童C27の中で自覚されていったものと感じさせられる。

B学級の児童にとって、連携授業では必ずしも自分たちの思い通りには行かない場合もあった。これは、C27と同様、自分に対する言及と他の児童に対する言及が多い傾向が見られた児童C31の振り返り文である。

初めは楽しみだったけれど、担当した人が「うん」しかいってくれなくて大変だった。でも、たくさん努力した。終わりにはK君が良い感想を言ってくれてうれしかった。努力のこいがあった。

児童C31が共に活動した特別支援学級の児童Kは、話し合いに参加することがなかなかできず、児童C31らは語ったり、視線を合わせたりするなどさまざまなアプローチを児童Kに対して試みていた。それでも、児童Kは反応が薄かった。しかしながら、授業最後の児童Kの感想で救われた様子である。文部科学省の小学校学習指導要領第3章第3では、「自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるよう工夫すること。」とある。「うん」としか言わない相手が「異なる考え」と言えるのかどうか疑問が残るが、自分の思い通りにならなかった内容から、工夫・努力して、自らの成長を実感したのと同じように感じられる。また、この児童C31と同様の思いを、児童Kの担任Cが児童Kに対して感じていると授業後に感想を述べていた。このことから、児童C31も、教師と同じ視点で授業を捉える児童の出現の事例であると捉えることができる。

V 結論

本研究によって、通常の学級と特別支援学級とが連携し、『学び合い』の授業に取り組むことは可能で、特に6年生である通常の学級の児童にとって、他者との関わりについて、児童はより深く考える傾向が

あることが分かった。また、双方共に、学習意欲の向上が見られた。

その理由として、特に6年生が、教師の立場に近い視点で授業を能動的に進めることが、要因であると考えられる。また、児童には本来、誰かの役に立ちたい、共に喜びを分かち合いたいという気持ちをもっており、『学び合い』の授業では、それを実感する機会が多くなることもあげられる。

VI 課題

6年生にとっても特別支援学級にとっても、日常的な授業や多くの行事をこなす中で、継続して連携授業を設定するのは困難であった。したがって、本研究ではごく限られた事例の中での傾向から、研究結果を導いている。ここに本研究の結果に普遍性があるかどうかには議論の余地がある。

特別支援学級の児童の実態が、行動の様子や、口頭で質問したのみにとどまる情報収集にすぎなかった。また、ビデオ等の記録だけでは、特別支援学級の児童の言動の全てを把握することに限界があった。特別支援学級の児童の視点からのデータ収集に課題が残る。より客観的で網羅的なデータ収集による調査・研究が求められよう。

連携学習の場合、多くの児童にとって、単級での学習より意欲的に学び、学び取る内容も多岐にわたる。しかし、お互いの意思が噛み合わず、激しい葛藤状況に置かれた場合が多々見受けられる。本実践の中では、その後にマイナスな影響は見られなかったが、こうした葛藤状況に置かれた状況が、児童が成長する過程においてどのような影響を持つものなのか、それを克服して学ぶことができるのかどうかについては、検証していく必要がある。

現段階において、通常の学級と特別支援学級とが連携して授業を行うという事例は極めて少ない。また、そうした着想そのものが乏しい。加えて、特別支援学級の在籍児童が急増する中、施設面、教員配置面で行政側も現場も苦慮することが多く、新たな授業形態を模索する余裕がなかなか無いのが実情である。しかし、通常の学級と特別支援学級との連携授業から児童が学ぶことには大きな価値があると考えられる。施設面、教員配置面の両面での課題もこの場合大きな障害にはならない。今後の実践・研究の進展を望みたい。

謝辞

本論文の作成にあたり、丁寧に指導して下さった国立特別支援教育総合研究所の涌井恵先生をはじめ、実践事例として協力して下さった対象児童とその保護者の方、教職員の皆様、さらにこの研究の機会を与えていただいた財団法人みずほ教育福祉財団に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

引用・参考文献

- 1) ジャネイ, レイチェル & スネル, マーサ・E (高野久美子・湧井 恵 監訳) (2011)子どものソーシャルスキルとピアサポートー教師のためのインクルージョン・ガイドブック 金剛出版.
Janney, R.&Snell,M.E. (2006)Social Relationships and Peer Support. Paul H. Bookes Publishing Co.,Baltimore,Maryland.
- 2) 森田ゆり・平野恵理子 あなたが守る あなたの心・あなたの体 童話館出版 1997
- 3) 文部科学省 小学校学習指導要領 平成 20 年 2008
- 4) 文部科学省 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領高等部学習指導要領
平成 21 年 2009
- 5) 西川純 『学び合い』スタートブック 学陽書房 2011
- 6) 桜井信夫 いちばん高い値段の絵 光村図書 2009
- 7) 湧井 恵 学び方は一人一人ちがっている！～「学び方を学ぶ」授業と協同学習でユニバーサルデザインな学びをめざす(2)～, 連載「発達障害のある子どもも共に学び育つ通常の学級での授業・集団づくり」 国立特別支援教育総合研究所メールマガジン第 55 号(2011 年 10 月)<http://www.nise.go.jp/cms/6,5309,13,257.html> (アクセス日：2012/01/30)
- 8) 横浜市教育委員会 横浜市 児童生徒指導要録記入の手引き 小学校・中学校・特別支援学校
2002
- 9) 西川純 小規模小学校における全校教科学習活動、西川純の部屋 ネットブック
<http://dl.dropbox.com/u/352241/manabiai-data/net-book/syokibo.pdf> (アクセス日：2012/01/30)

資料

【 資料1 】

体育の授業における通常の学級A学級と特別支援学級との連携授業の実践における、終了時のA学級の振り返りカードの記入

C1	A, B組の人が学習発表会で成功できるよう願っています。がんばってください。
C2	Rちゃんは曲がかかったら、自分からおどっていて、すごく上手でした！学習発表会でもがんばってほしいです。
C3	ぼくは、今日もY君を教えました。Y君は最初「ソーラン、ソーラン」のところでは、手が逆になってしまっていたけど、今日はそれをもとに戻すことができ、サビの部分がかうまくおどれていたの、良いソーラン節になっていました。
C4	最初は教えるのがたいへんでしたが、最後はあのようにみんながいっしょにおどれたのでよかったです。A, B組の人は学習発表会がんばってほしいです。
C5	Y君と楽しく教えられたのでよかったです。
C6	今日も楽しくできました。学習発表会はソーラン節をやると知って本当にうれしかったです。どんどんうまくなって、きのうよりも仲良くできました。TさんA, B組の人に学ぶことができました。
C7	今回は2回目で、Cさんもだいたい覚えてくれました。ただ「どっこいしょ、どっこいしょ」のところを反対向きに覚えてしまっていたので、前の人につられないように後ろに向かせたりできました。C君も楽しんでくれていたようだったし、私達も楽しめたのでよかったです。
C8	今日は2度目でした。1度目はあまりやり方がよくわからなかったです。だけど2度目は、しっかりと工夫して教えられました。このように、A, B組のために少しでも役立つことができよかったです。
C9	今日は最初よりも教えやすくなってより仲良くなれました。2月にある学習発表会に向けて上手におどれるように練習してよりうまくなってほしいです。
C10	A, B組の人に教えるのは難しかったけれど、みんなで最後に集まっておどれたのでよかったです。A, B組のみんなにソーラン節をうまくおどってもらいたいです。
C11	M君が参加できずにいて、それをさうすることができなかったのが残念です。でも、みんな楽しそうにやっていたので、とてもよかったですとおもいます学習発表会でもがんばってほしいです。
C12	最後までやっていて、難しかったが反対の手からやってしまうと、反対だから反対だよと言ったら本番のときに、間違えていなかったのよかったです。
C13	この2日間で、Cくとすべてではないけれど、ほとんどダンスをおぼえておどることができました。教えるのも難しく、だけど、他の教える人と工夫しておどれたのでよかったです。学習発表会をがんばってほしいです。
C14	今日はK君は最後までおどることができたのでよかったです。他の班の友だちも最後までおどることができたのでよかったです。練習がおわると「ハイタッチ」してくれたのでとてもうれしかったです。

C15	ソーラン節。今日は昨日よりもKさんと仲良くなることができました。例えば、Kさんとハイタッチをしました。とっても楽しかったです。最後みんなでおどれたのでよかったです。学習発表会でがんばってください。
C16	今日は、最後までA,B組の子たちといっしょにソーラン節をおどることができました。きのうと同じようにおどりたい！という気持ちが伝わってきて、より上手におどることができました。
C17	今回で2回目のソーラン節でしっかり教えて楽しくおどることができました。I君も初めはあまり元気がなかったけど、2回目はしっかり元気があったのでよかったです。
C18	今日、A,B組さんに教えて、今日T君は前回よりも動きがよかったので、うれしいです。ぼくはT君が楽しくやっていたのでよかったです。
C19	今日は、Mさんが練習をしなかったけれど、最後に他の人たちはみんな上手におどれていたのよかったです。発表会を成功させてください。
C20	ソーラン節を教えるのはとてもたいへんだったけど、A,B組の人と一緒にソーラン節をおどれたのでよかったです。
C21	I君はきのうよりよくいうことを聞いてくれて、A,B組のみんなもすごく上手で今度の学習発表会でがんばってほしいです。
C22	昨日ほどは教えることができななかったけれど、最後にみんなで上手におどることができたのでよかったです。
C23	A,B組の人達と仲良くなれました。A,B組の人たちは覚えるのが早かったです。
C24	最初は教えるのはとても難しかったけど、最後は一緒に教えるぐらいまで上手になったので、すごいと思いました。
C25	Rさんが最後まで覚えてくれてうれしかったです。私たちはつかれたけど、Rさんは「やる。」とってたくさんおどってくれてうれしかったです。
C26	ぼくはY君を教えるとき、かなり気が合わなかったけど今日は気が合いしっかりと教えることができました。
C27	今日は見学せず皆とソーラン節をおどれてよかったです。教えるのはすごくむずかしいけど、A,B組はがんばっておどれてすごいと思いました。一緒におどった人K君です。
C28	今日は担当の男の子といっしょに練習ができませんでした。男の子は座ったままでうごかなくて、できませんでした。何度もさそったけどできなかったの、とても残念でした。
C29	今日、最後の練習でみんなで楽しくおどることができたのでよかったです。みんなで昨日よりも、すごく上手におどれていたの、学習発表会でがんばっておどってほしいと思いました。
C30	今日は、昨日より声が出ていて笑顔でやっていたので、安心しました。また、機会があったらやりたいです。
C31	今日は最後のソーラン節だったけれど、A,B組のみんなと協力して大きな声を出してこしを落として、2日練習した中で、一番いいおどりができたのでいいと思いました。学習発表会でもがんばってほしいです。
C32	2日目でもう仲良くなることができ、楽しくできました。A,B組の人もソーラン節のコツをおさえおどってくれていてうれしいです。Kさんは声あまり出ていなかったのでもたやる機会があったら、そのことを教えたいです。

【 資料2 】

6年生B学級道徳の一斉授業記録

T=教師 C=児童(固有の番号) 括弧()内はつぶやき等 T※は、教師用指導書に準拠した、教師側の発問。

- T※ 今日の道徳では友情について考えたいと思います。(板書「友情」と書く)
友情っていうのは、どのようなことだと思いますか？友情ってどのようなことなのか、今からちょっと考えてもらいたいと思います。だから、今から、何人発言してくれるかどうか分からないけれども、ちょっと友情ってこんなことだろう、例えばこんなことだろうと思うことをちょっと発表して欲しいんだ。
- C24 友達と親しくするのが友情だと思います。
- T 次の人指してあげて、もうちょっと具体的だといいな。
- C2 友達と辛い時でも助けあっていけることが友情だと思います。
- T つらいときって、例えばどんなとき？
(迷っている時です。)
- C16 喜びを分かち合える時が友情だと思います。
- T 喜びを分かち合える時？
- C18 友達同士信頼しあって、どんなことでも乗り越えていけるのが友情だと思います。
- T 信頼しあってどんなことでも乗り越える。例えばどういうときにそんなの感じますか？例えば、こうゆうときに乗り越えられたよ。こういうときに喜び分かちあえたよ、そういうことの実話の話しが聞きたい。
- C24 つらいときで助けあうってことで、そうじのときにC2さんがつらかったときに
- T それってC2さんがつらかったときじゃん
- C24 そうですそうです。腹が痛いからって、教室そうじを手伝った。
- T C2君が具合悪かったときに、なに、助けてもらったの？
- C2 はい
- T それ友情感じたってこと
- C2 はい
- T ちょっとそこら辺の話をもっと具体的に聞きたいな。C2君の詳しい話をもうちょっと聞かせてくれる？
- C2 給食で、あまりにも遅くて先生が5分までに食べろって言って、早食いしていたら腹が痛くなって、それでC24さんが、あんまりできなかったときに、ほうきとかなかなかできなかったときに、手伝ってくれました。
- C26 ずっと前、赤白帽がなくなっちゃったときに、クラスみんなが一緒に探してくれたのに感謝しています。
- T それって、これのどこ(板書を指して)かのグループに入るの？
- C35 つらいときにも助けあうっていう
- T ああ、なるほど、赤白帽、そういったことあったね。昔。

- C27 新しい意見というか、喜びを分かち合うっていう意見に似ているんですけども、少しの変化でも気づいてくれるのが友情だと思って、今日私がボケーとしていて、そのときに、なんかどうしたの？とかC12さんとかC22さんとかが、聞いてくれるのが友情だと思います。
- T C12さんとかが聞いてくれたの、あとC22さんとか
- C16 喜びを分かち合えるときなんですけど、大縄で最高記録が出たときに、みんなで分かち合えたと思います。
- T ああ、なるほど。大縄ね。
- C26 C21さんの鉛筆、文房具をみんなで探したことがあって、それは友情だと思います。
- T C21さんはそんなとき、どう感じたの？
- C21 前だったので覚えていません。
(笑い)
- T ちょっとさあ、1班と3班だけしか意見を言わないから、後ろの方の人も意見言ってよ。
- C38 バスケットのときに、うちらが点を入れたときに、C34さんたちと抱きしめあって喜び合いました。
(笑い)
- T なるほど、喜びがすごく分かち合えるときには、抱きしめあって喜び合えるんだ。
(きも。でもおれもそういうことあったよ)
- T 結構抱きしめあってよろこぶことって多いよね。
(多い、多い)
- C27 同じようなことなんですけど、市の体育大会で、私が、リレーに出てて、1位になったときに、SさんHさんKさんの4人でどういうところがいいとか、褒め合いました。
- T ああ、なるほど。体育大会で1位になった。
(自画自賛)
- C35 C27さんとおなじなんですけど、市の体育大会で、リレーで1位とったときにスタンド席でバンザイ、バンザイって感じで。
- T 確かに、このとき、みんなでバンザイバンザイって言っていたね。
分かりました。じゃあ、みんなが友情ってどんなものかな、どのようなときに感じているかって、こんなこと(板書指す)なんだね。今日は、その友情のことについてお話を読みながらみんなで考えていきたいと思うね。なんだけど、今日は、「友情」ってことを「いちばん高いねだんの絵」っていうお話を読みながらみんなで考えていきたい。どうする、先生のほうが上手に読めると思うけど、先生が読む、自分たちが読む。
(先生！自分たち！)
それでは、自分たちでつなぎながら読んでいって、
- <以下、一人一段落ずつ、「いちばん高いねだんの絵」を音読する>
- T じゃあ、ちょっと幾つか聞いて行きたいんだけど、このお話はミレーっていうとても有名な画家、その絵がいくつか教科書にも書いてある。特に一番有名なのが「落ち穂拾い」1857年に描かれたこの絵は、世界の名画中の名画です。それまで、画家が描いていた絵っていう

のは、美しい風景とか、偉い人肖像画とか、それから神話の中の世界とかそういうものを描く人はいたんだけど、農民の人たちの仕事を絵にするっていう発想はあまりなくて、ミレーっていう人が初めて農民の人の生活に目を向けて、そして完成させた作品どれもが、最後は高い値段で死んだ後はものすごい高い値段で、何億、何十億、何百億という値段で売り買いされる名画になった。でも、ミレーとルソーがはじめっからそんなに有名だったかというところじゃない。冬の寒かった日にいい知らせがあるよって、ルソーがこの「接木をする農夫」の絵を買ったんだ。はい、これを聞いて、みんなはどう思ったかな？

(作曲家と似ている)

- T※ みんなはどう思ったかな。この話を読んでみて。みんなが考えていた友情とどうかな。
(似ているな。)
- T じゃあ、1番バッターC6君からいきましょう。
- C6 この話のミレーの。パンをあげるときは、つらいときでも助けあっているC2さんとC26さんの行動とちょっと似ているところがある。
- C27 ミレーもルソーも親友みたいな存在で、お互い助けあって有名な画家になったんじゃないかなと思いました。
- C17 ルソーもそんなにお金持ちじゃなかったのに、ミレーのこの「接木をする農夫」の絵をすごく高い値段で買っていい人だなって思った。
- C35 画家とか、似ている所があって、例えば作曲家とか、ベートーヴェンとかそんなに売れなかったのが、今から言うともちゃくちゃ高い曲になっているから、画家も作曲家は似ている。
- T なるほど、作曲家の中にも友情があふれる物語があったのかもしれないね。
- C24 画家と作曲家が似ている所があって、自分が生きている時は、あんま安かったけど、死後それがすごく認められている。そんなところがいいんじゃないかなと思います。
- C35 付け足して、ミレーとルソーとシューベルトも似ていると思います。シューベルトも32歳で死んじゃったんだけど、生きている時は曲がぜんぜん売れなくて困っていたんだけど、死んだ後にめちゃくちゃ売れたので、天国から見て、嬉しいなあって。というのが僕にも伝わってきます。
- T 今日のテーマは友情だからね。
- C21 他にも、風景画と農民のことを描く画家が協力しているっていうところがいい点だと思います。
- T なるほど、風景と農民の絵を描いているところが
- C13 p122の最後の方の「実ははじめから僕が欲しかったんだ。ぼくがぼくに頼まれて君から買ったのさ」っていうのは、欲しかったということだけじゃなくて、相手を思いやる気持ち、なんか、ミレーが大変だから買ってあげよう、相手を思いやる気持ち、だからつまり友情と同じもの。友情の塊なわけだから、最後のページの最後の行の「ルソーが買った値段がいちばん高い」そういう友情が結晶だからだと思います。
- T この一番高い値段っていうのは、本当は、この「接木をする農夫」の絵はいくらで買ったんだっけ？
(何百フラン)
- T※ 何百フラン、きっとその後は、何千何万何億フランという値段で売れるようになったんだろうね。じゃあp120に戻るけどルソーがミレーにこう言ったよね。「君の絵を買いたいって

いう人がいてね、僕が頼まれて代わりにやってきたんだ。」って言っているよね。これはルソーがミレーに気が付かれないように言ったんだよね。気が付かれないように絵を買った時、どんな気持ちだったんだろうね。嘘つきじゃん。

(やさしい嘘)

C35 ルソーが嘘つきって言ったんですけど別にミレーは最後らへんでミレーが死んじゃうときに、ルソーが買って来て安心したんじゃないかな。嘘は言わないよね。

T 「君の絵を買いたいっていう人がいてね、僕が頼まれて代わりにやってきたんだ。」

C35 嘘じゃない

C21 嘘っていうけれども、嘘も方便っていうし。内緒にしているのは、ルソーにも恥ずかしいという気持ちがあるんじゃないか。じゃなくて照れくさい。

T 照れくささがある

C24 恥ずかしいとか、照れくさいとかじゃなくて、もし、自分が貰いたいからっていうと、いいよって、いう、ミレーが断ると思う。

T ミレーが断る。僕がほしいからって言ったら？なぜ？

C24 お金が、あっちも大変なことってかいてあったんで、ルソーも大変って書いてあるので、だから、お金はからないから、絵だけあげるよっていうと思うから。

T ミレーは、友達が欲しいっていったら、お金はからないからあげるよって言っちゃうってこと。

C24 そういうことです。

C13 p120のミレーとルソーの会話の中に11と12行目の「決して君は安く売ってはいけないよ。」って書いてあるから、普通の人ならば、自分がただ欲しいのならば、できるだけ安く買いたいはずなのに、その、安く売ってはいけないよって言って、できるだけ高くしているところが、やっぱりルソーがミレーのことを助ける、

T 助けるっていうことだけかな？

C13 思いやりがあるんだと思います。

C27 C13さんが言った、思いやりだけじゃなくて、価値があるっていうことを分かって欲しかったんじゃないかな。

T 何に価値がある。

C27 絵に価値がある。

T 絵に価値がある。ルソーの実力に価値がある。友達の力に価値があるってことを認めているんだ。

C35 ルソーは絵を買ったんですけど、死ぬまでミレーには教えないようにしたと思います。理由は、体調崩して、p122に、なんだっけ、どこだっけ、あれ先生、ルソー君この絵を飾ってあるのは、ミレーの作品で、なんて言うんだろう、ミレーは驚いて、なんでここに飾ってあるのって言ったけど、ルソーはミレーの絵をずっと買ったかったんじゃないか。でも、最初から言っちゃうとだめだから、死ぬまでちょっとほっておこうかな、ってそういうかんじでやったんですよ。

T※ なるほど。一番最後のp124を開けてくれる。<「ええ、なんだって君。」ミレーは思わずルソーの枕元にひざまずきました。ミレーはこの友達の手をしっかりと握り締めました。ミ

レーの目から溢れでた涙が、結ばれた手の上にポトポトと落ちました。>と書いてあるよね。溢れでた涙が、結ばれた手の上にポトポトと落ちたとき、このときミレーはどのような気持ちだったんだろうね。

(ありがとう)

- C24 ええと、前に、ええと、ルソーが絵を買ってくれてありがたいという。それで冬を越せたってことは本当なんだから感謝している気持ちだと思います。
- C35 涙は有り難い気持ちも入っているし、食事もできない、できなかったのに、ミレーにパンとかあげて、ルソーが助けてくれて、涙で感謝している。
- T※ 今日、「いちばん高い値段の絵」いままでみんなが考えてきた友情との違いはあったのかな？
(あります。)
- T 違いはあった、違いはあった？それとも共通点はあった、どうだった比べて？
- C2 まあ、つらいときでも助け合っているのは意外と似ているんですけど。この文章を読んで。助けあうっていうのもあるけど。自分が生活が大変になっても、友達や相手を助けたっていう思いがスゴイなって思いました。
- C13 ぼくたちが言ったのと、この本、この文章を読んだ上での二人の関係というのは、共通点としてどちらもお互い助け合っていることで、つらいときに、その辛さを分かち合うっていうのもある。相違点っていうのは、僕達が話し合った中で、お金っていう貧乏っていう、経済的な、経済的な問題がのしかかってきているので、ルソーを自分自身で当てはめて考えたときに、自分だったら、あんまりお金持ちじゃないのに、そのミレーさん、ミレーに絵を買ってあげるっていうことはできないと思うので、そういう、なんていうか強いついていうか深いっていうか、そういう深いつながりが感じられました。
- T※ みんなはまだ子どもだし、でもきっとこれから大人になっていくときにね、やっぱり友情ってすごい大事だなとか、それからミレーとルソーが交わした友情みたいに、やっぱり、友情というのを噛み締めながらこれから大きくなっていくことって絶対あると思うし、ぜひ、そういうふうな友情が持てるような友達を、今これから作っていけると思うし、中学校に行ったら見つけて欲しいし、あの、そういうふうには思っています。だから、あの、みんなの中にも今でも喜びを分かち合えたり、親しくして楽しかったり、辛い時でも助け合う経験がすごくあるよね。そこらへんをやっぱ大事にしながら、ミレーとルソーが培った友情のように、ここの友情が死んだからって消えたわけではなくて、その成果が今でも美術館にいけば、我々は見ることができて、何百年たっても残っていくよね。友情の証が。みなさんもそんなふうな友情を作って欲しいなと先生は思います。じゃあ、今日の感想をこちらの方(プリント)に書いて、今日は終りにします。

【 資料3 】

6年生B学級道徳の一斉授業の児童の振り返り

C1	自分をぎせいにしてまで、友達のために何かするのはとても難しいことだけれど、いつかそんな風にできる友達ができたらいいなと思いました。
C2	授業中は、たくさん意見が言えてよかった。そうじのときは、腹がとても痛かったけれどHさんに助けられたのも友情だと思う。ミレーとルソーの間には本当に深い友情があった。授業中腹がいたくて集中できなかった。Hさんとはよくけんかするけれど、けんかするほどなかがいともいう？もっと仲良くしていきたい。
C3	今日は友情について学習をしました。僕が感じた友情と同じでした。しっかりと先生の話聞いたのでよかったです。
C4	わたしは、この文章を読んで、友情はとても大切。友情は、死んでも一生消えない宝物なんだなあとあらためて思いました。私は実際に強い絆で結ばれた人はたくさんいると思うけど、これからももっとたくさん作っていきたいです。
C5	今はとても世界的に有名な絵をかいていたミレーさんは、昔とても貧乏だったということが、びっくりしました。とっても苦労して絵を書いていたので、苦労してあきらめずに私もがんばりたいです。
C6	金がないのに絵をかってあげているのがすごいと思う。いい友情関係がむすべたらいいと思った。ルソーが絵をかってあげたのはミレーをよろこばせようと思った。
C7	ルソーはミレーのかいた絵をたかく買うってことは相当思っていないとできないから、見習いたい。
C8	「いちばん高い値段の絵」のミレーとルソーのような友達関係を、たくさんの人と築いていきたい。
C9	ルソーは親友のミレーの絵を高くかったのはすごくいいと思いました。自分もそういう友情ができるといいです。
C10	友情は大事だなと思いました。またこの物語を通していろいろなことを学びました。ぼくもこのような人になりたいです。
C11	ミレーが途中で「病気でねこんでいるのかもしれない。」と心配しているところから、ルソーをいつでも思っているミレーの様子が分かりました。もしも自分だったら、とても高い値段をかけてまで相手の絵を買わないなと思いました。これからはそれくらいのことのできるほどに友情関係を築いていきたいと思います。
C12	わたしはミレーが困っているとき助けてあげたルソーがとってもかっこ良いと思いました。わたしが教科書を忘れたとき、Hさんが見せてくれて助かったことを覚えています。自分は友達に助けもらったので、今度はわたしが助ける番だと思いました。
C13	これから大きくなっていくけれど大きくなっても変わらない友情を残しすくない学校生活でつくっていききたいです。
C14	ぼくは最初友情とは喜びを分かち合い、信頼しあえることだと思っていたけれど、このお話を読んで、友情とは信じ合い、助けあうことだということが分かりました。絵をお金がない主人公に買ってあげるのはいい友情だなと思いました。
C15	友情について話し合い、友達の大切さが改めてわかったような気がします。ミレーとルソー

	のように、お互いのことを信頼し助け合えるような友達を作りたいです。今、色々な人と学校で関わりを持っているけど、その人達とも仲良くしたいと思いました。
C16	ミレーとルソーの友情と私たちの友情のちがうところを見つけることができました。発言もすることができました。この授業を通して友情の大切さが前よりも分かりました。
C17	友情について話し合っってやっぱり友達って大切だなと思いました。また「いちばん高い値段の絵」を読んで友情っていいものだと思います。これからミレーとルソーのように深いつながりのある友達をつくりたいです。
C18	ルソーは実際ミレーの描いた絵がほしかったわけではなくて、ミレーに自身や希望、お金をあたえたかったんだと思います。ミレーにお金をわたしたから死んでしまったのかどうか分からないけれど、とにかくルソーはミレーを助けたくて、わざとうそをついて絵を買い取ったんだと思います。
C19	ルソーは優しいと思うけど話し合う程に考えてやった事だとは感じませんでした。私がまずしくても困っていたら助けようと思うし、もしルソーが同じ時代に生きていて、勝手にこう思っていたんじゃないかと話し合っているところを偶然見てしまったら気持ち悪いと思われんじゃないかと想像しました。でも友情は大切なものなんだと実感しました。
C20	ぼくは、これまで友情のこと、まったく気にしてこなかったけど、「一番高い値段の絵」のおかげで、これから中学生になったらしっかり友情とかを作っていきたいです。
C21	ミレーとルソーのような、困ったとき、つらいとき、苦しい時でも助け合える友情を作りたい。
C22	ルソーとミレーは両方共貧乏で苦しい生活をしているけど、私は例えば堀米さんのようなふつうの生活をしていても、苦しいことがあるので、助けあっていきたいです。
C23	いちばん高い値段の絵を読んで、友情というのは、仲良しかでなくていいということが分かりました。ぼくはSくんやHくん、Mと仲良く遊んだりこまったりしたことを話したりして協力したりしています。この話はちがうけど、友情は友達と友達の強い絆でむすばれていると、ぼくは思います。
C24	友情を改めてすごいな～と感じた。今はUさんなど少人数しか友達ができていない。これからは、さまざまな人と友達になり、そのなかでも親友というものをつくりたいと思います。そして、その親友や友達と心をつなげていきたいと思いました。今はU君とけんかをよくしてしまうけれども、ミレーやルソーのように親しくしたいです。友情最高！
C25	今日の授業はお母さんがいてきんちょうした。いつもより先生の話がきけてよかった。話にでてきた二人の友情とぼくの友情もにっていた。
C26	わたしは、ルソーのように人の役にたつ生き方をしたいです。自分のことより友達のことを優先できるような人になりたいです。
C27	この話は、友情がすごいことだとわかりました。いつでも助け合えるとか、おたがいの気持ちを理解する。そういうのが友情だと思います。今はSさんやFさんとかと仲がいいけど、もしかするとケンカするかもしれない。そういうときに友情ってどういうことか、思い出して仲直りできたり、できるようになればいいなあと思います。
C28	「友情」について話し合いました。ミレーとルソーの賢い友情を今日聞き、これからおたがい信じあえる友達をつくり、賢い友情を結びたいと思いました。Hさんのような思いやりの

	心を持てる人になりたいと思います。
C29	発言はできなかったけど話し合いには参加できたのでよかったです。これからもがんばりたいです。Hさんががんばっていたのがいいと思った。
C30	ルソーはミレーにも「立派な絵はかける」ことを知ってもらいたかったんだと思います。僕は友達を思いやり、助け合えるように友情関係を深めていきたいです。特にSさん。
C32	ルソーは優しいと思いました。ルソーも生活が苦しいのにミレーの絵を高い値段で買い取って……。わたしもこうゆうことがおきたら友達を助けてあげたいと思います。
C33	ぼくは今日の道徳で友情はとても大切だとあらためて思いました。ぼくも友情をつくっていききたいです。
C34	意見は言えなかったけれど、しっかり先生の話の話を聞けました。ミレーやルソーの気持ちをしっかり考えて、自分の友情と照らしあわせてみました。Hさんが沢山意見を言っていて良いと思いました。
C35	ミレーとルソーは最初は貧乏だった。死んだ後には有名な画家になっているのがすごかったです。
C36	「一番高い値段の絵」を私は読んで、友情の大切さが分かった。これから、喜びをわかちあえる友達を大切にしたいです。
C37	今日の授業は絵のことについてよくわかりました。このことをお母さんに伝えたいです。今日はHさんが意見をたくさんいえていてよかったと思います。
C38	今日の道徳は授業参観でした。最初のときに発言できてうれしかったです。「いちばん高い値段の絵」では、ミレーとルソーの友情に感動しました。これからもYさんとMさんとの三人で、どんな試練も乗り越えてずっといっしょにがんばっていききたいです。

【 資料4 】

6年生B学級 連携授業準備1時間目 一斉授業の振り返り

C1	A・B・C組、1年生に分かりやすく説明するのは難しいけれど、三択クイズにしてやるのはいいと思いました。劇にして説明するのもいいと思います。あまり難しい言葉や表現をしないように気をつけたいと思います。
C2	一回だけ自分の意見をいう事ができた。ぼくは劇でA・B・C組の人に伝えればいいと思う。難しい言葉をつかわずに、途中で質問をしながら少しずついいに、教えていけばいいと思う。
C4	いろいろなみんなの意見の中で私がいくなっと思ったのは劇です。クラスみんなで協力して出来るし、A・B・C組にも分かりやすく教えることができると思うからです。A・B・C組のみんなも、それだったら楽しく学べると思うからです。
C5	劇の最後にA・B・C組の子がどう思っているのか感想などを聞く。次の時間と本番は、きちんと意見を行ったりA・B・C組の子に分かりやすく教えてあげたいです。
C6	ぼくは三択クイズがいいと思います。意見で出たように、しゃべることができない子もできるようにしているからです。
C7	2対1はずるいからダメ。違う道を通る。
C8	いじめられている人の劇をやればいいと思います。ヒール（悪役）もつけてやって途中でクイズとか…一連の流れをやって最後に質問とかやればいいと思います。クイズは○×。
C9	A・B・C組の人みんなが3つの権利をとられたとき、どうすればいいのか分かるようにするには劇をすればいいと思います。劇をすれば小さな子にも分かると思うからです。
C11	私は三択クイズが良いと思いました。普段金のやりとりなどをいじめを通して取ったり、あげたりすることはないので、とても考えるのは難しかったです。でも、A・B・C組の子はクイズ形式ならきっと楽しみながらいじめについて、いけないことと、してもいいことが学ぶことができると思うので、やっぱり私は三択クイズが良いと思いました。
C12	たくさん意見の中から私がいと思ったのは劇です。1年生も見やすいと思います。次回もたくさん意見が出ると良いなあー。♪私も次回言えますようにッww
C14	ぼくは劇でいいと思います。また、1年生に分かりやすくするのがいいと思いました。物語は「いじめられる」→「相談する」→「またいじめられる」→「自分で「ヤメて」という」この順でやっていけばなと思いました。
C15	今の考えは6年生で劇をやって、その前や後に質問や三択クイズをする。劇の内容などはいじめや脅迫などでいいんじゃないでしょうか？いじめられる役をしてくれる人がいれば。みんな意見を出してすごかったです。次は考えてみたいです。
C16	ゆみこの気持ちになってみるとすごくいやになり学校にいきたくありません。私は3択の問題にすればいいとおもいます。クイズが楽しくて答えてくれるかもしれないからです。
C17	今日の話合いを聞いて、私は劇をやって途中で三択クイズを出すのがいいと思いました。3つの権利というのは難しいと思います。でも大切なことだと思うので、しっかり伝えればいいと思います。
C18	私は三択と劇をマッチさせてA・B・C組の子に教えればいいと思います。グループは班でやれば良いと思います。
C19	A・B・C組の子に分かりやすいように教える方法を考える⇒サポートする。や解決方法など意見が

	出ていて、自分は発言しないけど、同じような事考えているような部分もありました。あと、ゆみこの続きがみたいと思いました。
C20	『3つの権利を取り上げられそうになったとき』感想 ぼくは、この権利のことでしっかりとなんとなく発言できました。それにぼくなら絶対に千円をあげるなんてしないし、A・B・C組のみんなにしっかりと権利のことを分かってもらうためにがんばりたいです。
C21	劇がいいと思う。しゃべらない子のように、三択クイズを途中に入れればいいと思う。被害者とか難しい言葉を入れないといいと思う。
C22	～流れ～ゆみことけんたとだいすけの劇⇒質問→6年生が4・5・6年生の子にまぎれて（A・B・C組の子が意見をいいやすいように）まちがったことを言う。（A・B・C組の子につっこんでもらう）「私たち6年生はこう考えた」という解決法を劇でやる。
C23	ぼくは、劇の中にクイズを入れれば良いと思います。クイズで重要なところを覚えやすく楽しくできるからです。
C25	はじめにゆみこの場合を説明し、その時にあなたならどうしますかと聞き、のがれる方法を教える。ぼくがゆみこみたいになったら無視をするよ。
C26	私は劇がいいと思います。理由は本当にあるみたいなので印象に残るし、もし本当にあったら活かせると思うからです。また、劇の途中でクイズを入れたりするのもいいと思います。
C27	誰でもできるのでいいと思います。クイズと劇が成功すれば、みんなにわかると思います。
C28	A・B・C組に分かりやすく伝えるには、劇をやってクイズ形式にしてやれば興味を持って劇やクイズをやってくれると思います。
C29	三択クイズでやるのがいいと思います。発言できたのでよかったです。また自分の意見と他の人の意見と対比してできたのでよかったです。これからもがんばりたいです。
C30	ぼくは三択クイズにしたほうがいいと思う。なぜなら楽しくできるし、おどされたときの対処方法も勉強（覚えること）ができるからクイズがいいと思います。対処法。自分の気持ちをはっきり伝えたほうがいい。それでもだめなら、親や先生、友達に相談すれば、解決する。
C32	私も三択がいいと思う。1～5年までの人に分かりやすくして…三択クイズ+劇にして…いじめ→相談→先生→解決…
C33	ぼくは、今日の道徳で3つの権利を取り上げられそうになったら、ぼくは、先生や家の人に相談すると思います。
C34	3つの権利を自分たちで読みとりました。明後日はA・B・C組に分かりやすく伝えなければいけないので、友達と協力してがんばりたいです。
C35	ぼくはA・B・C組に質問するとき、しゃべらない人にも紙で書く作戦でいきたいです。理由はしゃべらないけど書くのは上手だからです。
C36	私は一番劇が良いと思います。理由は話しや歌より分かりやすいし心に残るからです。私もこういうとき今日のことを思い出してしっかり考えたいです。
C37	自分だったらしっかりと自分の気持ちを伝えていたと思います。
C38	劇をやればいいと思います。一番わかり易い。実際にやってみせたら、A・B・C組の子も「やってはいけないな」と思うから。質問も入れればいいと思う。

【 資料5 】

6年生B学級 連携授業準備2時間目 『学び合い』授業の振り返り

C1	役割を話し合い、劇の練習もできたのでよかったです。A・B・C組の人にわかりやすく伝えるためにしっかりと練習したいです。
C2	劇で役割ははっきりと決まっていなかったが練習はすることができた。特にNさんのナレーションがとても上手かった。少しおもしろくて、笑ってしまったりもしたので、次はまじめにとりくみたい。
C4	A・B・C組の子に分かりやすく教える方法・分担を決めた～(^_^)練習もしっかりと出来た！！ととってもとってもよく出来たと自分でも思う。
C5	役割を決めて練習をしました。よくわかりやすく伝えられるようにがんばりたいです。自分の役割、お母さん「いやだ！」相談する
C8	UさんとSさんが変なことをやっていて気色悪かったです。私の役目はいじめ役だったのでにねえ…面白いけど疲れます…明日の本番はがんばります。
C9	自分は友達役になりました。A・B・C組の人にもわかりやすく教えられるようにしたいです。
C11	最後の方に手をつないで仲良くなるように改造したので、いじめるのではなく仲良くした方がいいということがよく伝わると思います。
C12	教える方法、分担決め、練習までやることをできました♪A・B・C組のみんなに分かりやすく伝えられるようにがんばりますbb
C14	今日は劇の「いじめられる役」をすることになりました。10000札や劇の動きができたので、明日もできるようにしたいです。
C15	役…相談される友達役 劇とクイズ（質問）をやります。シナリオを考えるのがメッチャ楽しかったです。もっと練習したいですww。
C16	役 いじめられっ子 劇とクイズをやる。劇の内容を決めました。練習して覚えます！
C17	班で話し合い、劇の分担ができました。私はゆみこ役になったのでがんばりたいです。うまくできるようにしっかりと練習したいです。
C18	今日は台本を大まかに作りました。どうすればいいか、FさんTさん、Aさんと一緒に考えました。台本作りはとても楽しかったので、明日もしっかりやりたいです。3つの権利の大切さをA・B・C組の子たちに分かってもらえるよう、がんばりたいし、自分たちも教えた事によって何かためになったら良いと思います。
C20	ぼくは、しっかりと劇の分担を決めることができました。明日しっかりと教えてあげたいです。
C21	ナレーターになった。班の人が笑いまくっていて、困ってしまう。ハアア。
C23	役 いじめっこのけんた A・B・C組の子にわかりやすいやり方で覚えてもらえるようにしたいです。
C25	今日は話し合いに参加したー。明日休みだから参加できないけどがんばってほしいです。
C26	役 かつあげ役 劇&クイズ シナリオを考えました。明日は役になりきってがんばりたいです。
C27	私はゆみ子役になりました。どうしてもこわくみえないので、なんとかしたいです。クイズも劇でやるので、A・B・C組に分かりやすくできるように頑張りたいです。！
C28	今日はゆみこ劇場の役を決めてたくさん練習しました。明日A・B・C組に伝わるかしっかりと考

	えてリハーサルをしたいです。ぼくはいじめっ子役を演じます。
C29	すすんで話し合いができたので、よかったです。また役割がはっきりしたので、家で練習したいです。また明日 A・B・C 組の人に伝わるようにがんばりたいです。ナレーター二世。
C30	役割分担と教える方法を決めました。役割はナレーターになりました。教える方法は劇とクイズにしました。文を小さい子にも分かるように変えてみたりして、「安心、自信、自由」の権利をとりあげられそうになったとき、どうすればいいのか知ってもらえるようにたくさん工夫していきたいです。また、班のみんなと協力して声を大きくはっきりと言えるようにがんばりたいです。
C31	良い感じにできた。役割が決まったし、練習もできたので、人権についてのことが、A・B・C 組に伝わると思う。自分の役 いじめっ子。
C32	劇の練習をした…うけたww少しふざけた感じもしたけど、役割も決めたし話もすすんだ。ナレーター。
C33	今日の道徳で自分の役割と教える方法を決めることができました。自分の役割はいじめられっ子になりました。
C35	劇の練習で弓夫がちょっと上手だったのでよかったです。明日がんばりたいです。めんどろ (見役?)
C36	練習はあんまりできなかったけど、教える方法と役の分担を決めることができました。3つの権利を分かりやすく伝えられるように、がんばりたいです。
C38	劇の役割分担をしました。ナレーターになったので上手く読めるようにがんばります。みんなと協力して楽しかったです。

【 資料6 】

6年生B学級 連携授業『学び合い』振り返り

C1	最初にちゃんと静かに劇を見てくれたのでよかったです。とちゅうで反応が薄くなったり、変な遊びになっていたりしていたけど、最後には理解をしてくれたので、よかったです。あとバスケットクラブで一緒のチームの子にあいさつして帰れたのでよかったです。とても楽しかったです。
C2	はじめは少しきんちょうしたけれど、楽しく教えることができた。A・B・C組の2人もしっかりと分かってくれて、とてもうれしかった。全体的にテンションがたかく、ワイワイやっていて、とても楽しい感じだった。二人にも、もしやられたときの練習をやってもらい、しっかりとやることができてとてもよかった。
C4	最初から最後までしっかりとときいてくれたが、途中でAさんが遊びはじめてしまい、時間のムダになってしまったので、もう少ししっかりと聞いてほしかったです。Iさんは本当にしっかりと聞いてくれたのでとてもうれしかったです。Aさんはいろいろな物に興味を持ってしまいとても大変でした。だけど、とても楽しかったです。
C5	みんな初めの方は少し人見知りをしていました。だけど、だんだん笑ってくれて、とてもうれしかったです。M君がすごい笑っていたので、私たちも笑いながらやっていました。I君もM君も自分の意見をきちんと言ってくれていたのでよかったです。
C8	反応がなかった。歌はのろいの歌っぽかった。Tさんが笑ってくれなかった。
C9	今日はA・B・C組にうまく劇を見せることができました。やる前は少しきんちょうしたけど、みんなよく聞いてくれたのでとてもやりやすかったです。
C10	ちょっと楽しかった。面白みがあまりなかった。I君がよく言うことを聞いてくれた。よかったと思った。Aくんはがんばってほしいと僕は思った。
C11	話しあうときに言葉を分かりやすくするのが難しかった。余った時間が多くどういうふうに時間を使うか考えて、結局遊ぶことになる。けれど、途中であきてしまったためにテンションが下がったことが残念だった。Tさんは話してくれなかったけれど、なるべく話してもらえようがんばった！
C12	最初からテンションあげあげではじめたので、超楽しくできました。♪w。Iさんはしっかりと聞いてくれたけど、途中からAさんがねっころがって、話を聞いてくれなかったのが、残念でした。♡でも最後にAさんが「楽しかった。」と言ってくれたので、とても嬉しかったです。
C14	ぼくは劇で「いじめられる役」をしました。まあまあよく見てくれたのでよかったです。話し合いではI君がよく意見をいってくれたりしてくれたけど、Tさんがあまりいってくれなかったりしていたのでショックです。
C15	劇が5分くらいで終わってしまって、何をすればいいのかよく分かりませんでした。Kちゃんが意外とうまかった！！Sちゃんがちゃんと言えたときはうれしかった！！先生がSちゃんに「かわいい」とか言っていたのはキモかったww。KちゃんもSちゃんもかわいかったです！！
C16	最初に自己紹介をして名前を覚えることができました。劇は静かに見てくれました。途中やることがなくなってしまい「いやだ」と言うのを練習しました。KちゃんはすぐにできたけどSちゃんは私達の教え方が悪く最初のほうはあまりできませんでした。先生がアドバイスしてくれてSちゃんもできるようになりました。2人ともとってもかわいかったです。
C17	今日、劇のセリフを決めたりと、ばたばたしていたけど、本番をしたときに分かってくれたので、

	とてもうれしかったです。A君が寝たり、追いかけてたりしておどろいたけど、さいごはちゃんと聞いてくれたのでよかったです。発表はすごきんちょうしたけど、A・B・C組の人と交流できて楽しかったです。いろいろあったけどおもしろかったと思いました。
C18	劇は結構盛り下がってしまったけれど、「いやだ」を言えるように何度もやったら楽しくなって、盛り上がってきたので、とても嬉しかったです。Sちゃんに「お金ちょーだい！」というと渡してしまっていたので、最後までしっかり教えました。最後にはSちゃんもしっかり言える等になったのでよかったです。ちゃんとやってくれるか心配だったけど、楽しかったです。
C19	いじめられ役を体験してもらおう計画だったら「やらない。」って言われて困った。4班がにぎやかなのに比べてすっっっごい静かでした。武藤さんが何回も話していたのが良いと思いました。
C20	ぼくは、今日4組さんのみんなにしっかりと課題の安心・自信・自由の3つの権利を守るためにどうするかを劇で教えてあげることができました。4組さんの2人もしっかり分かってくれたみたいだし、自分にも4組さんのみなさんのためにもなったと思いました。楽しかったです。
C21	最初は不安だったが、だんだん楽しくなってきて最後は楽しさMAX！
C23	I君とM君がこわがったり、うれしそうにして覚えてくれたので、教えがいがあったと思います。最初は暗かったけど、劇をはじめ、びびったり、楽しくなってくれたので、とても楽しかったです。
C26	今日のはじめの5分で劇が終わってしまって大変でした。けれど、もし1000円を取られそうになったらどうすればいいか？などを教えてあげたので、時間もちょうどだったし、SちゃんやKちゃんも取られそうになったらどうすればいいか分かったと思います！！笑ってくれたのでうれしかったです。！とてもいい経験になりました。
C27	最初どう説明していいか、わかんなくて、テンションが超低かったです。でも一生懸命聞いてくれたので上がりました。静かで聞いていたM君が笑ったり、話してくれたのがとても嬉しかったです。Y君も笑ってくれていたので私も楽しかったし、二人とも楽しそうでした。先生が悪い人をやってくれたので、もっと楽しかったです。二人に伝わってほしいと思います。もし次があるなら、今度はレクをやりたいです！！
C28	はじめたころは、担当した子たちが硬い表情で成功するかとても不安でした。しかし劇や説明をしていくうちにとても楽しそうにしている、わりとおとなしい子がじぶんから劇に出たいと言ってきて、少しずつ楽しくなってきて、最後には安心・自由・自信の三つの権利、お金を要求されたときの解決法を分かってもらえてとても良かった。今回授業を通して交流できてよかったです。
C29	最初いう言葉がなくてけっこう困ったけど楽しかった。また、A・B・C組と遊んだのははじめてだったので、けっこう面白かったです。バスケットボールクラブでIさんといっしょなので、今度のクラブで「楽しかった」と聞いてみたいです。これからもA・B・C組の人と遊ぶことがあったら、また楽しみたいです。
C30	初めは上手くできると思っていたけれど、上手くできませんでした。また、担当した子が「うん」だけしか言ってくれなかったのが気分が悪くなりました。でも、最後まで自分なりに「安心・自信・自由」の守り方を教えられたと思います。また班のみんなと協力できたと思います。
C31	初めは楽しみだったけれど、担当した人が「うん」しかいってくれなくて大変だった。でも、た

	くさん努力した。終わりにはK君が良い感想言ってくれてうれしかった。努力のかいがあった。
C32	劇のときとか話し合いの時とかテンションが異常に最大級に低かった。遊びでテンションがゆっくりあがってきて、終わりにはテンションがあがってたww歌をうたったときは、のろいのうたに聞こえた…こわww!!
C33	最後の方自信がなくなってしまったのが残念でした。
C34	最初は劇でしっかり分かってくれるか不安だったけれど、二人とも聞いてくれたので、とてもうれしかったです。しかも実演までしてくれました。Nさんがとても迫力のある演技をされていてすごいなと思いました。楽しみながら、覚えることができるように、努力と工夫をすることが出来ました。
C35	今日は4組の子が分かってくれて、作戦成功してよかったです。中学校でもこんな事があつたら今の感じでやりたいです。
C36	最初は不安でした。劇を初めて少したつと担当した子も3つの権利を理解してくれて、うれしかったし、安心しました。劇をやってよかったと思いました。
C37	意外とみんな暗くあんまり意見を言ってくれずあんまり楽しそうじゃなかった。なのでとてもつまらなかった。
C38	練習では先生に怒られてばかりだったけど、本番では上手にできました。二人が笑ってくれたし、やってはいけないことを理解してもらってうれしかったです。2・6班と協力して楽しい劇をすることができてよかったです。

